

関東ふれあいの道(栃木)⑳風薫る山里のみち

2024年12月28日池内淑皓

2024年10月11日(金)晴れ。涼しくなると思ったが、結局暑かった。

いつもの通り小山から水戸線の下館に出て、真岡鉄道で七井駅下車、本コースを歩いた。

「風薫る山里のみち」であるから春歩くのだろうが、今は栗が拾えた。淡々とした里山を歩いて、芳賀郡の名山芳賀富士に登り、茂木駅に着く。茂木駅前の旅館に宿泊し、㉑鯉と山あいのみちを歩き繋げる事とした



七井駅際に、ふれあいのみち案内板が置かれている



㉑風薫る山里のみち地図



行程図 七井関から益子駅まで、14.3km 3時間となっている



子供の遠足用かな



真岡鉄道を利用するのは、今回で4回目となる



町と町をつなぐ大切な足であるが、人口がどんどん減っている



かつての国鉄真岡線の真岡駅、SL を模した駅舎が今尚健在



真岡駅を過ぎれば丘陵地帯に入り、集落はまばらになってしまう



今日の歩行コース下車駅、ここから歩き出す



県道に出ると道標があった。安善寺まで 5.3km



町を抜けて、里山に向かう。暑くなってきた



森の中に入ると、舗装の照り返しが無いから、涼しくなる



秋の里山は栗の恵みがあるから、ウォーキングが楽しくなる



稲刈りの終わった畑道を行く。ウォーキングハイの気分で、快適に歩く



地元の人達が設置した芳賀ハイキングコースの道標と一緒に歩こう



ここは山栗で小粒だけれど甘い。しっかり頂いて栗ご飯が食べられる



「安善寺」浄土宗 標柱に”史跡 平貞能草創地”とある



平家の侍大将 平貞能が建久 5 年(1194)創建した。本堂は享保 2 年(1730)の再建で、小さいながら浄土式庭園がある



安善寺 案内板



寺の脇から踏み跡を頼りに、芳賀富士に向かう



藪を抜けて登山道に出ると、粋な標柱に出会い、大笑い



栃木県芳賀郡の人達は、富士山に似た芳賀富士をこよなく愛して



登山道の手入れやベンチ、道の傍らに花木をも植えている



「芳賀富士頂上」(272m)南の方は、見晴らしが良く、晴れていれば本物の富士山 が見える



折角ここまで来たのだから、記念に一枚パチリ



茂木町から見た芳賀富士



帰路は、芳賀富士の山腹を巻くように、里へと下る



地元が建てたハイキングコースに従って、次の目的地安楽寺を目指そう



蕎麦畑を通過する、栃木県は蕎麦粉の生産量全国3位に入る。取入れはもうすぐ



「逆川」川沿いに北に向かって歩く。本来この辺りの川は、南に下るのであるが、逆に流れて、北を流れる那珂川に注ぐ



「安楽寺」天平 9 年(737)の創建であるが、たびたび火災に会い堂宇を失った。現在の本堂は応永 13 年(1406)再建の古刹



境内の大欅(県文化財) 樹齢 600 年以上と云う、目通り 5.5m 火災で本体は焼失



真岡鉄道終点の茂木駅到着 16 時 今日茂木のホテルに宿泊する



町中を流れる逆川沿いに、なかなか素敵なホテルがあった

[参考タイム] 七井駅(10:30)→安善寺(12:20-12:55)→芳賀富士(13:20-13:25)→ 安楽寺(14:50-15:00)→
道の駅もてぎ(15:40)→茂木駅ゴール(16:03)

この項完

「関東ふれあいの道(栃木)㉑鯉と山あいのみち」に続く